

# 茨建協

# 2012/2

## ニュース

No.511



茨城県  
陶芸美術館

## 茨城県の美術館・博物館

### 茨城県陶芸美術館

茨城県笠間市笠間 2345 (笠間芸術の森公園内)  
TEL.0296-70-0011  
URL.<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

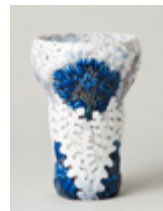
東日本ではじめての陶芸専門の県立美術館。所蔵作品として、茨城にゆかりがある板谷波山、松井康成をはじめとする文化勲章受章者及び人間国宝等の作品を一室に展示している

### 企画展

魅惑の北欧アール・ヌーヴォー 塩川コレクション  
ロイヤル コペンハーゲン  
ピング オー グレンダール

平成24年1月2日(月・祝)～3月18日(日)

デンマークが誇る名窯「ロイヤル コペンハーゲン」と「ピング オー グレンダール」の19世紀末から20世紀初頭に制作されたアール・ヌーヴォー磁器を紹介します。



「花文花瓶」ピング オー グレンダール  
1920年塩川コレクション

### < 主な内容 >

- ▼ 新春賀詞交歓会を開催
- ▼ 建災防県支部の24年度上半期講習日程
- ▼ 全建が評議員会
- ▼ 境支部がコンプライアンス講習会
- ▼ 竜ヶ崎支部が献血に協力

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

### 発行(社)茨城県建設業協会

☎310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

# さらなる地域貢献、早期復興誓い合う

平成24年 新春賀詞交歓会を開催しました

本会は1月14日、茨城県建設業協同組合、(財)茨城県建設技術管理センター、茨城県建設業厚生年金基金と共に、平成24年新春賀詞交歓会を水戸京成ホテルで開催しました。橋本昌昌県知事や茨城県選出国會議員、県議會議員、県庁幹部職員など多くの来賓を迎え、出席した約220人は、県土発展や地域社会に貢献するとともに、技術力・経営力の向上を図り、コンプライアンスの向上、県内の早期復旧に協力していくことを誓い合いました。



主催者あいさつで本会の岡部英男会長は、昨年の東日本大震災で地域の安全・安心のため尽力された会員や関係者に、改めて感謝を表しました。



岡部会長

さらに「地方建設業を取り巻く環境は、公共投資の減少などにより厳しい状況が続いておりますが、災害から県民を守り、安全で安心して生活できる良質な社会資本を整備することが大事であります。また、地域に貢献する建設業が適正に評価され、生き残れる仕組みも大切になります。本年も、会員企業の資質向上を図りながら、社会資本整備の重要性と、それを担う建設業の役割を社会に正しく発信してま

いりたい。会員が一致団結して難局を乗り越え、活力ある業界となるよう精一杯、努力してまいります」と決意を表明しました。

その後、来賓がそれぞれ祝辞を述べ、本会と会員のさらなる発展を祈念されました。続いて、高橋靖水戸市長の発声で出席者全員が乾杯。本年の飛躍を約しました。



出席者全員で乾杯を行い、本年の前進を誓い合いました

# 災害に強い県土づくりに貢献

一致団結して難局乗り越えよう！

ご来賓から  
祝辞を頂きました



茨城県知事  
橋本 昌さん

昨年は、大震災直後の応急復旧活動や義援金贈呈、地元野菜の購入などの支援活動に尽力いただき、改めてお礼申し上げます。今回の災害で、非常時に備えた県土づくりが大切だと痛感しました。災害に強い県土づくりの先頭に立つのは皆さん方です。さらなるご活躍に期待しています。



参議院議員（自由民主党茨城県支部連合会会長）  
岡田 広さん

昨年の大震災で、無駄だと批判された15.5mの防潮堤を築いていた岩手県の村では一人も被害がありませんでした。コンクリートが人を守ったのです。自民党は責任政党、地域政党であり、日本、県のために力を尽くしてまいります。皆さまも岡部会長を中心に団結され、ご活躍を祈念いたします。



自由民主党茨城県支部連合会最高顧問  
山口 武平さん

建設業協会が元気にならなくては、経済も良くならない。現在の政治も、国民の期待に応えられていないのではないか。公共事業は、地域経済発展につながるものである。さらなる対策を求めている。皆さんのご支援をお願いしたい。



茨城県議会議長  
磯崎 久喜雄さん

デフレ対策に必要なのは需要の創出です。国の来年度予算で公共事業費は実質的には増加となったが、まだまだ足りません。今は、強じんな国土づくりが求められています。今後も県勢発展のため、災害に強い県づくりのため、さらなるご尽力をお願い申し上げます。



参議院議員  
佐藤 信秋さん

来年度の予算では復興枠を確保するとともに、復興費用の地方負担を減らしました。仕事をすれば、工夫をすれば利益を出せる公共調達について検討を重ね、皆さまのご意見をうかがいながら議員立法を目指します。復興のためにも、国民の安全を守るためにも、今まで以上のご活躍を祈念いたします。

- ・ 昨年の大震災からの素早い復旧作業で、地元建設業の大切さを改めて知った方も多いと思う。これからも復旧に協力するとともに、公共事業や建設業の良き理解者を増やしていくことが大事だと思う。
- ・ 復旧活動では、多くの人に感謝された。その気持ちを忘れないようにしなければならない。
- ・ 今は復旧工事で忙しくなっているが、資材や人の手配で苦勞している。発注者には、さまざまな面で配慮をお願いしたい。
- ・ 多くの人から道路や家などを早く直してくれと頼まれるが、人手が足りない。頼られるのは嬉しいが、限度があると思う。

賀詞交歓会に参加した方の声

- ・ 復旧のための補正予算が組まれ、国の来年度の公共事業予算も増えるということだが、復興と景気回復のためには、まだまだ足りない。
- ・ 当面は復興需要があると思うが、その先は、また厳しくなるのではと予想している。
- ・ 昨年は、法に触れる残念な事件が起きてしまった。改めて業界の体質改善を図るべきではないのか。
- ・ 復興需要を除くと建設事業費は減る一方で、業界は厳しい時代に耐えている。頑張れば報われる仕組みを、きちんと作ってほしい。

## 災害に強い社会基盤整備や戦略的広報を

全建の24年度事業計画骨子案／評議員会を開催

全国建設業協会（浅沼健一会長）の評議員会が1月26日に都内で開かれ、7つの柱で構成する平成24年度事業計画骨子案が示されました。24年度も、国民の安全・安心確保と災害に強い社会基盤整備の計画的推進への対応、戦略的な広報活動、CSR活動などを積極的に推進していく計画です。

開会にあたり浅沼会長は「国民からありがとうと感謝され、働く人々が自らを誇れる建設業界を目指したい。そのためにもコンプライアンスの徹底と企業の社会的責任への取り組みを一層強化するとともに、建設業の果たしている役割、果たすべき使命を積極的にPRしていく」と呼び掛けました。

議事では、24年度の事業計画骨子案が提示され、主な活動として①大規模地震などに備えた防災・減災対策の早急な推進②全建ビジョンの策定及びその実現に向けての取り組み③広報体制の強化④一般社団法人への移行に伴う事業執行体制の整備、などが挙げられました。このほか、24年度の国土交通省関係予算、24年度税制改正要望の結果、復旧・復興事業の施工確保に関する連絡協議会などの説明も行われました。



### 全国建設業協会 平成24年度事業計画骨子案

- 1、国民の安全・安心確保と災害に強い社会基盤整備の計画的推進への対応
- 2、建設業の健全な発展への対応
- 3、戦略的な広報活動の推進
- 4、建設業におけるCSR活動など推進への対応
- 5、公益法人制度改革への対応
- 6、魅力ある労働環境づくりと労働災害防止対策などの推進
- 7、その他事業・行事の開催など

## 一般社団法人へ定款変更

全国建産連が理事会

全国建設産業団体連合会（絹川治会長）の理事会・評議員会、臨時総会が1月27日に都内で開かれ、平成24年度の主要行事日程案や一般社団法人への移行について協議しました。

当日はそのほか、国土交通省の佐々木建設流通政策審議官による講演や、建設経済研究所の六波羅昭客員研究員を招いた特別講演も行われました。



## 境支部 活動報告

# コンプライアンス講習会で法令遵守を徹底

境支部（杉田實支部長）では1月30日、「建設業コンプライアンス講習会」を支部会館で実施。会員の幹部や技術者ら約50人が出席し、コンプライアンス（企業の法令遵守）について研修しました。

講習を前に杉田支部長は、「今回の内容は、建設業として、また会社の経営者として、健全な経営を維持するために基本的なことであります。激震に見舞われ、今なお寒風が吹き荒れる厳しい局面ではありますが、この難局を乗り越えるため、そして信頼回復のために、支部員全員で全力を尽くしていきたいと思っております」とあいさつ。

講師を務めた(財)建設業適正取引推進機構の正司芳次相談指導部長は、「コンプライアンスとは、法令を遵守し、企業倫理や社会規範を尊重することです。これを守ることで、企業への信頼が高まり、社員も会社に誇りを持てるようになり、結果的に会社の業績が上がります」と解説。

CSR（企業の社会的責任）については、企業



が活動する際、自社の利益を追求するだけでなく、顧客や株主、従業員、取引先、地域社会などの関係を重視しながら、社会に対して果たすべき責任であると説明しました。また近年は、社会的責任を果たしている企業に投資する人が増えており、これが企業にCSRへの対応を迫る要因の一つになっていることにも触れました。

さらに、最近の独占禁止法の運用状況などについても、事例を交えながら詳しく解説しました。

## 竜ヶ崎支部活動報告

# 献血に協力しました

竜ヶ崎支部（松尾稔支部長）では、龍ヶ崎市建設業組合（佐々木孝夫組合長）と共に1月28日、龍ヶ崎市の保健センターにて献血ボランティア活動を実施。両団体合わせて75名が貴重な血液を提供しました。

献血ボランティアは地域貢献活動の一環として行っているもので、本年度で6回目。献血量は400ミリリットルが多く、貢献度が高いと好評でした。また、茨城県赤十字血液センターでは「寒い時期は献血する方が少なく、3カ月程度しか保



存出来ないため、この時期の献血は大変にありがたい」と感謝を表しました。

建設業労働災害防止協会茨城県支部 平成24年度開催予定表（上半期）

月	日	曜日	講習名	会場	備考	
4	3	4	火水	鹿島港湾福祉センター	(学科)	
	5	6	木金	鹿島港湾福祉センター	(実技) 5、6日のいずれか	
	9	10	月火	職長・安全衛生責任者	鹿島ハイツスポーツプラザ	
	12	13	木金	職長・安全衛生責任者	建荷協研修センター	
	16	月		除染等業務に従事する労働者に対する特別教育	建荷協研修センター	(学科のみ)
	17	18	火水	玉掛け	建荷協研修センター	(学科)
	19	20	木金	玉掛け	建荷協研修センター	(実技) 19、20日のいずれか
	23	月		丸のこ等取扱い作業従事者	建荷協研修センター	
	24	25	火水	高所作業車	建荷協研修センター	(学科)
	26	27	木金	高所作業車	建荷協研修センター	(実技) 26、27日のいずれか
5	1	火	小型車両系建設機械	ひたちなか商工会議所会館	○(学科)	
	2	水	小型車両系建設機械	建荷協研修センター	○(実技)	
	7	月	自由研削用といしの取替え等の業務	建荷協研修センター		
	8	9	火水	小型移動式クレーン	鹿島ハイツスポーツプラザ	(学科)
	10	11	木金	小型移動式クレーン	鹿島ハイツスポーツプラザ	(実技) 10、11日のいずれか
	14	15	月火	足場	茨城県建設技術研修センター	
	15	16	火水	玉掛け	石下建設会館	(学科)
	17	18	木金	玉掛け	常総市総合福祉センター駐車場	(実技) 17、18日のいずれか
	21	22	月火	巻上げ機（ウインチ）	建荷協研修センター	22日実技
	22	23	火水	小型移動式クレーン	建荷協研修センター	(学科)
24	25	木金	小型移動式クレーン	建荷協研修センター	(実技) 24、25日のいずれか	
28	月		振動工具取扱い作業従事者	古河市商工会三和事務所	○	
28	29	月火	職長・安全衛生責任者	建荷協研修センター		
29	30	火水	高所作業車	鹿島港湾福祉センター	(学科)	
31	6/1	木金	高所作業車	鹿島港湾福祉センター	(実技) 31、6/1日のいずれか	
31	6/1	木金	石綿作業主任者	建荷協研修センター		
6	4	月	振動工具取扱い作業従事者	建荷協研修センター		
	5	6	火水	小型移動式クレーン	古河市商工会三和事務所	○(学科)
	7	8	木金	小型移動式クレーン	古河市商工会三和事務所駐車場	○(実技) 7、8日のいずれか
	11	12	月火	足場	建設業協会高萩支部会館	
	14	15	木金	足場	建設業協会竜ヶ崎支部会館	
	18	19	月火	地山及び土止め	建荷協研修センター	
	20	水		地山及び土止め	建荷協研修センター	
	21	22	木金	足場	鹿島ハイツスポーツプラザ	
	25	26	月火	職長・安全衛生責任者	建荷協研修センター	
	25	26	月火	高所作業車	鹿島港湾福祉センター	(学科)
27	28	水木	高所作業車	鹿島港湾福祉センター	(実技) 27、28日のいずれか	
29	金		刈払機取扱作業	建荷協研修センター		

7	2	3	月火	型枠	建荷協研修センター	
	3	4	火水	小型移動式クレーン	建設業協会筑西支部会館	(学科)
	5	6	木金	小型移動式クレーン	下館総合卸センター駐車場	(実技) 5、6日のいずれか
	9	月		現場管理者統括管理	建荷協研修センター	
	10	11	火水	高所作業車	建荷協研修センター	(学科)
	12	13	木金	高所作業車	建荷協研修センター	(実技) 12、13日のいずれか
	17	18	火水	玉掛け	つくば市商工会	○(学科)
	19	20	木金	玉掛け	つくば市商工会	○(実技) 19、20日のいずれか
	23	月		現場管理者統括管理	鹿島港湾福祉センター	
	24	25	火水	高所作業車	石下建設会館	(学科)
8	26	27	木金	高所作業車	石下建設会館駐車場	(実技) 26、27日のいずれか
	30	31	月火	建築鉄骨	建荷協研修センター	
	1	水		安全衛生推進者（初任時）	建荷協研修センター	
	2	3	木金	足場	ひたちなか商工会議所会館	○
	6	7	月火	木造	建荷協研修センター	
	8	水		酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育	建設業協会筑西支部会館	
	9	10	木金	職長・安全衛生責任者	ひたちなか商工会議所会館	○
	21	22	火水	玉掛け	コミュニティセンター城里	○(学科)
	23	24	木金	玉掛け	城里町商工会桂支所駐車場	○(実技) 23、24日のいずれか
	27	28	月火	ローラー（締固め用）	建荷協研修センター	28日実技
9	28	29	火水	玉掛け	鹿島港湾福祉センター	(学科)
	30	31	木金	玉掛け	鹿島港湾福祉センター	(実技) 30、31日のいずれか
	3	4	月火	足場	茨城県建設技術研修センター	
	4	5	火水	高所作業車	つくば市商工会	○(学科)
	6	7	木金	高所作業車	石下建設会館駐車場	○(実技) 6、7日のいずれか
	11	12	火水	玉掛け	ひたちなか商工会議所会館	○(学科)
	13	14	木金	玉掛け	建荷協研修センター	○(実技) 13、14日のいずれか
	17	18	月火	地山及び土止め	建荷協研修センター	
	19	水		地山及び土止め	建荷協研修センター	
	20	21	木金	足場	鹿島ハイツスポーツプラザ	
9	24	25	月火	職長・安全衛生責任者	建荷協研修センター	
	25	26	火水	小型移動式クレーン	鹿島港湾福祉センター	(学科)
	27	28	木金	小型移動式クレーン	鹿島港湾福祉センター	(実技) 27、28日のいずれか

注：実技を伴う技能講習の実技講習日は、申込先着順に指定します。  
備考欄に「○」がある講習は、特定の団体からの個別の要請があり、開催を設定した講習会になり、主催機関は建災防ですが、受講者の優先順位は団体会員が優先されますので、一般での受講を希望する方は、あらかじめ受講残余の枠を確認してください。

参 考

月	日	曜日	項目	会場	備考	
6	13	水	建設業「死亡災害ゼロ」推進大会	茨城県建設技術研修センター		
10	3	水	茨城県産業安全衛生大会	ホテルレイクビュー水戸		
10	18	19	木金	全国建災防大会	ワールド記念ホール（神戸）	

## チャリティーゴルフの 収益金を贈呈しました

建設未来協議会



本会の建設未来協議会（大貫茂男会長）は、昨年末に開催したチャリティーゴルフの収益金について、福祉事業や文化事業に役立ててもらおうと、1月26日に茨城新聞社文化福祉事業団へ贈呈しました。

## 茨城県の最低賃金が改正されました

— 茨城労働局 —

特定最低賃金業種	改定後 (時間額)	改定前 (時間額)
鉄鋼業	799円	793円
はん用機械器具、生産用機械器具、業務用機械器具製造業	783円	778円
計量器・測定器・分析機器・試験機・理化学機械器具、医療用機械器具・医療用品、光学機械器具・レンズ、電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具、時計・同部分品製造業	776円	772円
各種商品小売業	750円	744円

※改定日は平成23年12月31日

お問い合わせ **茨城労働局 労働基準部 賃金室**  
電話 029-224-6216

## 4月からWTO対象額が 引き下げられます

世界貿易機関（WTO）政府調達協定の対象額が平成24年4月1日から、円高などの影響で実質的に引き下げられます。国の建設工事は現行の6億9000万円から5億8000万円に、地方公共団体の建設工事は23億円から19億4000万円になります。国際協定の基準額は変わりませんが、WTO対象となる案件数は増加すると見られます。

### 平成24年4月1日以降のWTO対象額

		現 行	4月1日以降
国	建設工事	6億9000万円	5億8000万円
	設計コンサル	6900万円	5800万円
	物 品	1500万円	1200万円
	サービス	1500万円	1200万円
地方公共団体	建設工事	23億円	19億4000万円
	設計コンサル	2億3000万円	1億9000万円
	物 品	3000万円	2500万円
	サービス	3000万円	2500万円

## ちよつと一言



小・中学生を対象に実施した「建設現場を描いた図画作品展」に関し、先日、参加した児童の父兄から電話があった。要約するに、「初めて図画展に参加したが、参加賞のほか名前入りの図画集を送ってもらい、子供も喜んでおり建設現場にも興味を持ったようだ」との内容であった。啓発活動の一環で作品展を実施しているが、このような電話を頂くと、活動が浸透していることの確認ができた喜びと、参加している子供たちが就職する年代には、以前のように建設業が多く雇用を生み出し、雇用不安が無い時代であることを願うばかりである。 (N)